

研究会報告

物流研究会

<http://logistics.j-navigation.org/index.html>

1. 2013 年度秋季研究会

(1) 日時：平成 25 年 11 月 9 日(土) 13:00～15:35

(2) 場所：神戸ポートタワーホテル 第 4 会場：
Rose (ローズの間)

(3) 講演内容

一般講演が 3 つ行われた。

「日本航海学会物流研究会員に関するアンケート結果の検討」

岡山正人 (広島商船高専)

学会の研究会のあり方に関する方針として会合型からプロジェクト研究型への変化があることか会員向けにアンケート調査を行なった。調査対象としては、航海学会物流研究会メンバー全員 (2013 年 4 月現在 26 名) に対して、2013 年 7 月 (8 月に追加調査) に実施し、主な調査内容として、①現在の研究対象、②主な研究テーマ、③利用する分析手法、④プロジェクト研究のテーマの提案、⑤専門分野および所属の把握を行なった。

数量化Ⅲ類の結果より、内航船舶を研究対象に選ぶメンバーは、フェリー、モーダルシフトを関連して選んでおり、また物流施設計画を選ぶメンバーは、物流施設運営、包装設定、荷役システムを関連して選んでいる。その他例えば、内航船舶を分析している研究は交通分析で行なっていることが示された。こうしたことから、内航船舶を利用した環境負荷低減策に関する研究 (個人番号 1.6.13)、港湾計画・運営を中心とした国際物流の効率化に関する研究 (2.3.11) それ以外に研究対象が分けられるなどの特徴がみられ、今後、物流研究会で検討していくことが提案された。

「変則形状を有する港湾コンテナターミナルでのコンテナ配置計画」

西村悦子 (神戸大)

国内外にある港湾コンテナターミナルの形状



写真 講演の様子

は、岸壁延長に長い長方形であることが一般的である。しかしながら、海外の港湾では、地理的・経済的要因でそのような形状をしていないもの (変則形状と呼ぶ) も多くある。ターミナル内部のコンテナブロック配置をみると、長方形ターミナルの場合では一般に岸壁延長に対し垂直に設ける通路は等間隔であることが多いが、変則形状では通路の位置は保管容量を左右することから、保管容量をある程度確保できるような通路配置を行っている。

そこで当該研究では、この通路配置を効果的に決定するモデルを構築し、得られた通路配置でコンテナの配置計画にどのように影響するかを紹介した。問題の考え方や解法手順の説明があり、計算結果として等間隔で配置する場合と比較した結果、コンテナ配置の評価指標の 1 つであるサービス時間は、提案する方法で決定した通路配置の方が短くなることが示され、スペース占有率として表現した複数コンテナがブロックをどの程度シェアして利用するかの利用状況は混み具合や係留のパターンによって変動することが示された。質疑の中で、数値実験のための様々なケーススタディについて意

見交換が行われた。

「Analysis of contemporary logistics in China
- Concentrate on relationship between ICD
development and transportation infrastructure -」
Wang Lijin (Graduate School of Maritime Sciences,
Kobe University), Wang Mariner (Ritsumeikan
Asia Pacific University)

中国のICD (Inland Container Depot) と交通インフラの関係性について検討している。

中国の交通インフラは、海上輸送からみると渤海地域、武漢長江川流域、中国珠江河流域で見られる。コンテナ船は、太倉、營口などの港が増加している。鉄道輸送についても、8路線あり2003年から2011年にかけて増加傾向である。航空輸送については、115の航空路線があるが、低いシェアに留まり、港湾でも限定された状況にある。

中国におけるICDの現状は、さらなる経済発展を目的に、2002年から今まで20件のICDを建設が完了し、さらに建築中のものも多くある。しかし年々の膨大な投資に対して、ICDの経営は赤字になっている。当該研究は中国の物流発展をさらにし続けるために、現在のICDをどうすべきかに着目している。

ICDは、内陸部に輸出入コンテナ貨物の発着ポイントとしてパキスタンなどの西に向かっており、ICDはマルチモーダルの中心として、輸送統合化の役割を担う。西安国際ICDではRFIDなどの技術によるカードリーダーの取り組みが見られる。今後のICDの普及には、輸送の構築を基礎として適用されるジョイントベンチャーなどの取り組みが必要である。またコンテナ増減の要因としても、ジャストインタイムができないために大連上海の周辺の港の利用が増加しているという見方とリーマンショックにより絶対量の変化が見られると見方も示され、内陸部でのインランドデポの活用を進めていく必要があることが報告された。

(4) 研究会総会 15:35～15:50

・運営委員会できめた研究テーマについて承認され、次回以降進めていくことが確認された。

2. 2013年度秋季運営委員会

(1) 日時：平成25年11月9日(土) 12:00～13:55

(2) 場所：神戸ポートタワーホテル 第4会場：
Rose (ローズの間)

(3) 議題

・今後プロジェクト研究を進めるために、特集号を見据え、テーマに添った発表を中心にすすめる。発表者には特集号での投稿を前提として準備していくこととなった。

・プロジェクト研究を進める場合、指針としてアンケート調査結果を活用する。

・研究会費は、原則として外部の発表の講演料・原稿料として活用する。院生の発表者へ交通費補助も検討していくことが示された。

・次回の研究会での講演者には、春はプロジェクトの一貫（国際物流の実態）のテーマに見学会なども視野に入れて実施し、秋では航海学会での物流研究のレビューを中心に発表してもらうことが確認された。

(幹事:土井義夫)